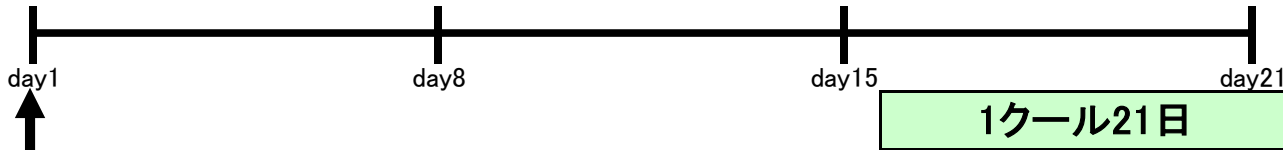


# がん化学療法個人計画書

患者の状態により輸液の内容・量及び投与速度を変更する場合があります。

|      |                                     |                 |
|------|-------------------------------------|-----------------|
| 科名   | 適応がん種                               | レジメン名           |
|      | ◎がん化学療法後に増悪したHER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌 | トラスツズマブ デルクステカン |
| 投与予定 | 休薬を含めて1クール                          | 21 日 施行可能な限り    |



**Day1**

アプレピタント 125mg内服

点滴静注 30分  
生食 100ml  
パロノセトロン 0.75mg  
デキサメタゾン 9.9mg

点滴静注 5分  
5%ブドウ糖液 100ml

点滴静注 ※90分  
5%ブドウ糖液 100ml  
蒸留水20ml規格(溶解用)  
実際に投与する液量  
(下記の計算量を参照)  
**トラスツズマブ デルクステカン  
6.4mg/kg**

点滴静注 5分  
5%ブドウ糖液 100ml

※初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降は30分間

**トラスツズマブ デルクステカン投与時には、0.2μmのインラインフィルターを通して投与すること。**

◎トラスツズマブ(遺伝子組換え)を含む化学療法による治療歴のない患者または、本剤の一次治療及び二次治療における有効性及び安全性は確立していない。副作用が発現した場合には、“添付文章”記載の基準を考慮して、休薬・減量・中止すること。間質性肺疾患があらわれ、死亡に至った症例が報告されているので、投与開始前に胸部CT検査及び問診を実施し、間質性肺疾患の合併又は既往歴がないことを確認した上で、投与の可否を慎重に判断すること。また、投与中は初期症状(呼吸困難、咳嗽、発熱等)の確認、定期的な動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)検査、胸部X線検査及び胸部CT検査の実施等、観察を十分に行うこと。異常が認められた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

|    |
|----|
| 備考 |
|    |

| 薬品名             | 申請投与量     | 計算量              | 実際の投与量  | 薬価最小組み合わせ | 備考                    |
|-----------------|-----------|------------------|---------|-----------|-----------------------|
| トラスツズマブ デルクステカン | 6.4 mg/Kg | #REF!<br>mg/body | mg/body |           | 1バイアルを注射用水5mlに溶解。遮光必要 |
| 実際に投与する液量       | 蒸留水20mlで  | 0 ml             | ←       |           |                       |

| 併用内服薬   | 用量(1日量) | 用法                         | 投与期間   |
|---------|---------|----------------------------|--------|
| デキサメタゾン | 8mg     | 分2 朝昼食後                    | day2~4 |
| アプレピタント | 125mg   | トラスツズマブ デルクステカン投与60分前までに内服 | day1   |
| アプレピタント | 80mg    | 分1 朝食後                     | day2、3 |